

# 第32回技能グランプリ

## 審査講評



ペイント仕上げ 横山 司

今回の競技課題は「持続可能なより良い社会の実現」としました。国連が推進する「SDGs」の十七の目標から、各選手がひとつをテーマとして選んだうえで作品を制作していただきました。

ペイント仕上げの出場選手は三名でしたが、これは全三十種ある競技職種の中でも最下位という不名誉であり、今後の開催が危ぶまれる事態となつてしまいました。

その中であつてこの度、果敢に挑まれました。ペイント仕上げの三名各位には、心より敬意を表したいと思います。

さて冒頭ここで特筆すべきことは、まず皆さんの持参した道具・筆・刷毛の類に驚嘆させられたことです。手描きの仕事が激減し、今や全く筆を持たずに営んでいる同業者が少なくないという現状の中、初出場のお三方が持参したそれは、結構と使い込んだ道具類であり、誠に心強い競技の幕開けとなりました。

各選手の講評は、入賞、ゼッケンナンバーの順で記させていただきます。

### 金賞 松井勝彦氏



氏は「SDGs」の十七の目標から十三番目の「気候変動に具体的な対策を」を選び、止まらない温暖化に今後の世を憂い、警鐘を促す作品に仕上げました。

全体を通して一貫した暖色系というより、むしろ強烈な赤を主に用い、文字通りの熱さと渴きがいやでも伝わって参ります。つまり実に解りやすい表現方法を執りました。この解りやすいということと判りやすいということとあり、訴求力に繋がる、というとても大事な要素なのですが、この点が、他の選手から大きく抜き出でておりました。更に氏は几帳面な性格をお持ちなのか、ペイント作品には割と珍しく、直線を多用しての画面構成が、強いメッセージを発する力に成功しておりました。

し、表記の書体に角ゴシックを選ぶなど、ここでも直線にこだわった徹底ぶり、気持ちよく伝わりました。

バランス的には、唯一曲線の地球の表現が少し弱く感じてしまったのは、中央に君臨する温度計の大きさとその色が強すぎたせいですね。その為にあつて全体に少し窮屈な画面に感じられてしまいました。折れ線グラフと温度計をもう少し小さく左に寄せ、サブタイトルの「STOP温暖化」の八角形標識の位置を考慮すると画面の中に余白が生まれ、その解消になったかな、と残念です。今後は余白の使い方を工夫してみてください。

とはいえ、何より直線の描き方、溝引きの技術の描き方はピカイチです。正確さはピカイチです。今後は氏を「溝引きの松井」との異名で呼ばせていただくこととします。

### 杉山利明氏



氏は十七項目ある目標の中から最後の十七番目「パートナーシップで目標を達成しよう」を選びました。それまでの十六の目標を達成するには、一人一人の心の寄り添い、つながり、そしてそれは国と国との慈しむ世界か

ら、更には、宇宙規模での指針へと描きました。氏はそれを人類の希望であり使命だと訴えています。まず最初に目に飛び込んでくるのは、しつかりと結ばれた手と手です。氏もこの手の表現には重きを置いておりました。何度も描いては描き重ね、を繰り返されておりました。このリアルさに懸命に取り組む姿勢に、感動いたしました。

近年はインターネットの普及に伴い、情報の収集があたかも部品のように手に入るようになり、手描き表現の良さ、味わいを軽んずる傾向に懸念を感じておりましたが、氏のように手仕事の技をメインに表現する勇氣には素晴らしいものがあると思えます。

さて想いが強すぎたのでしよう、描き始めるとあちこちが気になりだしたと見えて、集中力が定まらずに色んな箇所を手をつけては、また別の所を手掛ける、という悪循環が見られました。また、氏の人類への思い入れが宇宙規模あまりに大きすぎたのか、表現するモチーフが哲学的に高尚すぎて、作品を見る側に伝わりにくかった点が残念に思いました。

右上の空間は心を表し、中心の球体は太陽を、矢印は十七の目標の方向を、ロゴを照らす同心円は月明かりを、大人の手は先進国を表し、結んだ子供の人差し指は十七の花弁に包まれた地球を指さしているとのこと。もう少し

し解りやすい具体的な表現方法を工夫しての再チャレンジに期待いたします。

### 勝井寛昭氏



描くことが好きと見えて、三選手の中でも一番楽しそうに競技に取り組んでいる姿がとても印象的でした。平筆の運びの技巧やウエスを筆替わりに使用したり、表現方法の工夫には感心いたしました。計算されたレイアウトもグラフィカルなデザインに感覚ですね。

氏は十七項目ある目標の中から十六番目の「平和と公正をすべての人に」を選びました。まず画面いっぱい白い鳩。青空、白い雲、緑の大地、そして虹。明るい絵面から受ける印象は平和そのものです。氏の得意とする描写なのでしよう、何度も描いてきたであろうと思われる手馴れた巧みさが見て取れます。そして額縁から飛び出そうとしている鳩はまさしくトリックアートの妙ですが、その面白さに引かれすぎて、右下に書いた図柄の内容を説明するコピー「勇気ある決断と行動が、未来の子どもたちを救う」や、氏から事前

に提出された制作意図の「誰もが抱えている正義感にあつても気付かず犯してしまふ過ちの危うさと、途上国の苦しみへの救いを表現した」との説

明、果たしてそれらが描かれていくか、その想いをどう表現するか、の難しさに、恐らく氏も苦慮なされたことと推察いたします。完成された構図の作品だけに、この辺りの未消化が実に残念です。虹ももう少し透明感が欲しかった。後半になってロゴに陰を書き加えたことで、奥に描き加えたはずの虹の距離感がぐつと前面に近づいてきてしまった。鳩をもう少し浮かせ、足をちよつとだけ見せると、更に飛び出す感が出たかも、などなど。氏の再チャレンジを期待して止みません。

日広連の波田会長には、連日わたつて会場にお越し下さり、選手への応援を頂きました。大会の運営にあつては、九広連の中尾会長はじめ北九州組合の皆様には、前々日から撤去日までお手伝いを頂きました。加えて千葉組合の小室理事長はじめ関係者の方々には、ライトボックス等の必要備品の搬入出をご担当いただくなど、皆様には大変お世話になりました。競技委員一同、心よりお礼申し上げます。今大会の出場選手十名のうち三名を選出された静岡組合の上村理事長には、ご協力と技能に対する情熱とご努力に、衷心より感謝申し上げます。

今回の粘着シート仕上げは参加者七名のうち、連続出場の手は三名という割合の高さです。競技前日に開催した選手交流会では、皆さんの発言に闘志が表れており、技能グランプリにかける意気込みを強く感じました。その場で一位宣言をした鈴木選手は見事に金賞を獲得、おめでとうございます。二位以下も本当に僅差で、実に見応えのある大会となりました。

### 粘着シート仕上げ

#### 競技委員 石澤暁夫

「誰かが抱えている正義感にあつても気付かず犯してしまふ過ちの危うさと、途上国の苦しみへの救いを表現した」との説



今回の粘着シート仕上げは参加者七名のうち、連続出場の手は三名という割合の高さです。競技前日に開催した選手交流会では、皆さんの発言に闘志が表れており、技能グランプリにかける意気込みを強く感じました。その場で一位宣言をした鈴木選手は見事に金賞を獲得、おめでとうございます。二位以下も本当に僅差で、実に見応えのある大会となりました。

海底の岩肌はシートを三枚重ね立体感があり、美しい表現が見事でした。ただ残念なのは、照明が入ると気にならないという理由で、抜いた黒のシートを上貼りして色シートを貼り込んだ仕事は少しお粗末でした。

手際のよい作業性、無駄のない動きは練習量の多さを感じられました。ゆうゆうと泳ぐ亀を大きく配し、全体にブルー系統で上手くまとめています。同系色を巧みに使い分け、とても綺麗に見せていながら、シンプルでインパクトがあります。ただ、環境をとらえた題材に対して、海に亀というよくあるモチーフを採用する発想が新鮮さに欠けます。亀にもオリジナリティが必要で、コピーとの連動性も不可欠です。もう少しメッセージ力のあるものを期待します。

透明板を使用し、最後に裏からサンドブラスト系のシートを全面に貼り込むアイデアは絶妙な効果を出しています。切り貼りの技術力も高く、美しい仕上がりました。

銀賞 岸田充正氏

最古の漫画といわれる日本画「鳥獣人物戯画」をモチーフにカエルやウサギを配し、とても楽しそうに学んでいる光景をユーモラスに表現している作品です。配色はイエローオーカーのベースに白黒、アクセントに赤系のローズを用いて和のイメージに合ったカラーリングのうまさが引き立ちました。

ロゴはマンボウやチンアナゴなど、可愛らしくユニークなデザインでしたが、仕上がりが少し気になりました。コンセプトを熟考する中で良い作品が生まれます。



梶原隆平氏

この作品はV字型の構図を使い、広がり動きのある画面構成です。不安定な世界情勢、戦争や人種差別などの問題から一人ひとりに希望の光を送る人物を配し、より強いメッセージを込めた独創性の高いデザインです。多色で賑やかな感じはするものの、色使いは非常に上手くセンスが伺えます。特に背景の切り替えのすき間を白で抜き、お互いの干渉を上手く防いでいます。胸に太陽を抱く黒人の表情も意味深で、バックの黒がそれを強調しています。ロゴはすっきりまとめているのですが、コピーの文字が読みにくいのが悔やまれます。背景のモチーフにもしつかり意味を持たせてシンプルにすれば、より作品が光ります。仕上がりが実に丁寧でした。

豊留克駿氏

情景が室内という目新しいデザインで、好奇心を持ち学習意欲を高めていこうというメッセージが込められた作品です。コーヒーマグの湯気が吹き出しになり、マンガチックな構成が軽やかで明るくポップな仕上がりになっています。ただ、学習する親子の表情が全く同じで、学びの喜びや驚きを伝えたかったと思いますが、少し違和感がありました。



邊見大輔氏

これまで人間が汚してきた海を綺麗にし、生き物が住み良い未来にしていこうというコンセプトで制作されたこの作品は、海底のゴミを水玉で表現し、大小の円形をいくつも浮遊させることで、動きを与えています。砂底、海の色、水玉はカラフルで綺麗ですが、亀、エイ、イルカ、サメなど、やはりよくあるモチーフは新鮮さに欠けます。また、ロゴの文字に明度差がないため、目立たなく全体の印象を散漫にしています。



田中敬次氏

「作品製作に大事なことは本物にふれること」デザインには様々な定義がある中で、「デザインとは既存のものを自分の発想で再構築したもの」を言い、本来「壊す」という意味もあります。亀にしても鳩にしても、そのままの表現は単に「絵」です。我々の競技は単純に技術を競うのではなく、技能競技です。従って、図柄のモチーフとなるのは最大限のアイディアでオリジナルとしてアレンジしていく必要があります。

田中敬次氏

自分の思い、考えをどのようにデザイン構成し、それぞれの色や形にしつかり意味を内包させてテーマに沿ったメッセージをいかに伝えるかということが肝要なのです。美術誌や雑誌、インターネットやTVを通していろいろな着想を得ることもありますが、本当の意味でその作品を自分のものにするためには、やはり現場に行つてその空気感を味わうことです。私が第十五回大会に出場した際は、作品のモチーフに岡本太郎の「太陽



の塔」を引用し、実物を見るために青森から大阪に出かけました。塔は遠くから異彩を放ち、そばで見上げるとその圧倒的な存在感に体がのけぞつたのを覚えています。そこから強烈なインスピレーションを受け、作品に投影しました。皆さんも作品づくりを小手先でやろうとせず、身体で感じ、実物に触れ生きていく「本物」を見たりすることで、その場の空気、臨場感からいろんなアイディアがまた生まれます。そうした過程でできた作品は、生き生きと伝わってくるものです。AIにはできない感じる心「感性」を大事にしてほしいと思います。それは普段の仕事の向き合い方にも共通することです。ぜひ今回の技能グランプリも、花形競技にふさわしい高いレベルで競い合う大会にしたいと思っております。皆様の日々研鑽を期待し、強く深いコンセプトを持つてのご参加をお待ちしています。二日間の競技、大変お疲れ様でした。出場していただきありがとうございました。

総評

「作品製作に大事なことは本物にふれること」デザインには様々な定義がある中で、「デザインとは既存のものを自分の発想で再構築したもの」を言い、本来「壊す」という意味もあります。亀にしても鳩にしても、そのままの表現は単に「絵」です。我々の競技は単純に技術を競うのではなく、技能競技です。従って、図柄のモチーフとなるのは最大限のアイディアでオリジナルとしてアレンジしていく必要があります。

自分の思い、考えをどのようにデザイン構成し、それぞれの色や形にしつかり意味を内包させてテーマに沿ったメッセージをいかに伝えるかということが肝要なのです。美術誌や雑誌、インターネットやTVを通していろいろな着想を得ることもありますが、本当の意味でその作品を自分のものにするためには、やはり現場に行つてその空気感を味わうことです。私が第十五回大会に出場した際は、作品のモチーフに岡本太郎の「太陽



会場の様子



選手と競技委員

石澤暁夫

第32回技能グランプリ 参加作品

▼ペイント仕上げ



金賞・厚生労働大臣賞 松井勝彦(静岡・アートスタジオ・ヤマ)



日広連賞 勝井寛昭(滋賀・株ミyakアート)

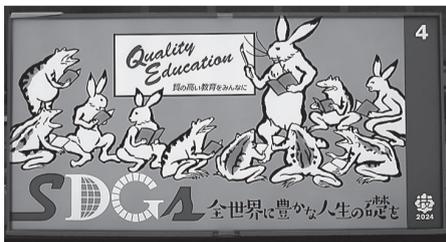


杉山利明(静岡・株コバヤシ)

▼粘着シート仕上げ



金賞・厚生労働大臣賞 鈴木淑仁(静岡・有キヨシ看板店)



銀賞 花牟禮祐一(千葉・株協同工芸社)



銀賞 岸田充正(大阪・株光陽銘板)



日広連賞 梶原隆平(兵庫・株富士企画)



日広連賞 豊留克駿(鹿児島・株ブンカ巧芸社)



邊見大輔(大阪・株桃太郎)



田中敬次(兵庫・株マルミント)